



体育は、実際に動いてみたらこそ感じられたことを、身体や言葉で表現することのできる教科の一つです。このような実体験を伴って考えながら動き、できるようになりたいという「思い・願い」をもったり、「どうすれば・・・」といった「問い」をもって動き合ったりすることは、「自ら学ぶ子供」を育てることにつながっていきます。

例) 小学校5年 ゴール型「バスケットボール」(守り3人対攻め4人のゲーム)

I つかむ (課題を把握し、見通しをもつ)

1回目のゲーム

チーム・全体での話し合い



パスが回ってこないし、シュートも打てない...

ゲームをして感じたことは?

パスがきても相手にボールを取られちゃうんだ...



私たちのチームは、遠くからしかシュートできなかったよ。

共通の問い

どうすれば、パスが通るのかな?

教師の関わり **ポイント③**

この教師は、「まずはやってみる」ということを大切に、実際に動いたからこそ感じることできた難しさや課題となる部分を子供自らが見出すように働きかけ、自分事としての「問い」をもたせるようにしています。

II 深める (追究し、解決する)

チームごとの作戦タイム

チーム内の練習

2回目のゲームへ

ボールを取られちゃった時は、相手が近くにいた時だよ。

相手がいらない場所ってどこなの?

作戦ボードを使って考えようよ。(ICT活用を含む)

このチームの作戦名は何作戦?

チームの課題
相手がいらない場所に移動しよう

教師の関わり **ポイント④**

子供たちが明確な課題をもったことを確認したこの教師は、「パスの仕方」や「パスの受け方」などを指導するのではなく、子供自らが学びを高めていくよう任せ・委ねています。

また、作戦タイムの終盤で、「このチームの作戦名をつける」と何作戦?」などの問いかけをし、作戦に対する意識付けを強めるように支援しています。

III まとめる・振り返る

チームまたは全体での話し合い

みんなで課題を解決しようとしていたから、このチームは話し合いができていたよね。

今日の学習を振り返って、次の学習につなげていきたいことは何か話し合いましょう。

相手がいらない所に移動したら、うまくいく時もあったけど...。味方が遠くなっちゃった。

相手チームは敵の前に移動していたよ。

次時への問い
他にもパスを受けられる場所はあるの?

教師の関わり **ポイント⑦**

この教師は、チーム内で共有した課題を意識しながら動き合っていた子供たちの学びの姿から、次時への新たな問いをもつてであろうと見取っています。

そして、チーム全体で同じ思いをもって動き合っていたことを大いに称賛し、その学び方のよさを価値付け、子供たちに実感させています。